

黙示録4章1-3節 「天の御座」パート①

1A この後に起こる事 1

2A 神の御座 2-7

1B 座っておられる方 2-3

2B 二十四人の長老 4-5

3B 四つの生き物 6-7

3A 礼拝 8-11

1B 永遠に生きておられる方 8-9

2B 栄光と誉れと力 10-11

本文

黙示録4章を開きましょう。(本文を全部読む)私たちは、2-3章において七つの教会に対する主の言葉を読んできました。私たちは、使徒ヨハネが後ろから聞こえる大きな声に反応して振り向いたら、そこに栄光の姿が輝く主イエスさまがおられました。そして、「1:19 **それゆえ、あなたが見たこと、今あること、この後起ころうとしていることを書き記せ。**」と命じられました。ヨハネが「**見た事**」とは、その栄光に輝くイエス様の姿です。そして、「**今あること**」は、今ある七つの教会です。そして、「**この後起ころうとしている**」と言われました。それが、4章からの出来事になります。4章1節に、「**ここに上れ。この後必ず起こることを、あなたに示そう。**」とあります。

つまり、4章以降は教会の後のことでもあります。私たちは、2章と3章で、アジアにおける七つの教会に対するイエス様の宣告を読んできました。その一つ一つの教会の最後が、「**耳のある者は、御霊が諸教会に告げることを聞きなさい。**」で終わります。つまり、これら七つの教会だけではなく、教会全体に対してイエス様が語られている言葉だということです。これらのことの後に、起こることをあなたに示そうと、主はここで言われています。そこにあるイエス様の言葉は、「わたしは、すぐに来る」というものでした。教会が、主が来られることにおいて用意していなければいけないという使信です。これは、福音書においても、イエス様がオリーブ山などにおいて、お語りになっていたことでした。

そして、主が、教会のために来られて後に、世に対して患難をもたらすことを警告しておられます。6章の最後には、「**神と子羊の御怒りの、大いなる日が来たからだ。**」と、地上にいる者たちが叫んでいます。ちょうどそれは、ソドムとゴモラに神ご自身が、火と硫黄が降り注がれて滅ぼされたように、主が、罪と不法に対して御怒りを現わす時を定めておられるということです。主は、この御怒りからの救いを約束されています。「ガラ 1:4 **キリストは、今の悪の時代から私たちを救い出すために、私たちの罪のためにご自身を与えてくださいました。私たちの父である神のみこころに**

したがったのです。」「ロマ 5:9 ですから、今、キリストの血によって義と認められた私たちが、この方によって神の怒りから救われるのは、なおいっそう確かなことです。そして、黙示録では 4 章以降、もっと正確には 6 章以降に、主が御怒りを地に注がれる預言が出てきます。

そして、どのようにして主が、教会を救い出してくださるのか？主が来られる時に、教会を空中にまで引き上げられることによってです。「Ⅰテサ 4:16-17 すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、17 それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。」ちょうど、ロトがソドムから出た後に、火を硫黄の池が降り注いだように、教会を救い出された後で、地上に御怒りを注がれるのです。「Ⅱペテ 2:7-9 そして、不道德な者たちの放縦なふるまいによって悩まされていた正しい人、ロトを救い出されました。8 この正しい人は彼らの間に住んでいましたが、不法な行いを見聞きして、日々その正しい心を痛めていたのです。9 主はこのようにされたのですから、敬虔な者たちを誘惑から救い出し、正しくない者たちを処罰し、さばきの日まで閉じ込めておくことを、心得ておられるのです。」七つの教会の一つ、フィラデルフィアにある教会に対しても、主はこのことを約束されていました。「3:10 あなたは忍耐についてのわたしのことばを守ったので、地上に住む者たちを試みるために全世界に来ようとしている試練の時には、わたしもあなたを守る。」ここの「試練の時には」というのは、「試練の時から」と訳すことができます。その時そのものから、守ってくださるということです。

私たち教会は、絶えず「自分たちは、いつか取り去られる時が来るのだ。」ということ意識していないといけません。この世には属していません。この世に置かれている神の教会なのですが、地の塩として、世の光としての役割を果たしたのであれば、主はご自分の時にそれを取り除かれます。「Ⅱテサ 2:7 不法の秘密はすでに働いています。ただし、秘密であるのは、今引き止めている者が取り除かれる時までのことです。」ですから、私たちは霊の戦いの最前線に置かれています。不法の秘密が働いているけれども、私たちが、福音の真理に根ざして、しっかりと主の命じられていることを行っている時に、引き止める働きをしています。そして、その働きがいつか地上では終わりの時があり、それから主がこの地上に不法の人を現すようにされます。そして、福音の真理に従わなかった者たちに対して、悪魔に惑わされるままにし、この世を裁かれます。

1A この後に起こる事 1

¹ その後、私は見た。すると見よ、開かれた門が天にあった。そして、ラッパのような音で私に語りかけるのが聞こえた、あの最初の声があった。「ここに上れ。この後必ず起こることを、あなたに示そう。」

ヨハネは、見たといって、証言を続けています。黙示録の書き出しに、「1:2 ヨハネは、神のこと

ばとイエス・キリストの証し、すなわち、自分が見たすべてのことを証した。」とあります。七つの教会に対するイエス様のことばを聞いて、次に見えたものがありました。「見よ。」と言っています。ヨハネは、この言葉を数多く使っています。

そして、ヨハネが見ると、「開かれた門が天にあった」とあります。これからヨハネが見るのは、天における神の御座です。私たちが、前回、コリント第二 12 章で学んだ、第三の天のことです。神が御座におられて、それですべての権威と主権、力をキリストに任せられているというのが、私たちが聖書から示されている世界です。ダニエルも、世界で荒れ狂う四つの獣の幻を見せられた後に、父なる神のおられる御座の幻を見ました。「ダニ 7:9-10 私が見ていると、やがていくつかの御座が備えられ、『年を経た方』が座に着かれた。その衣は雪のように白く、頭髪は混じりけのない羊の毛のよう。御座は火の炎、その車輪は燃える火で、10 火の流れがこの方の前から出ていた。幾千もの者がこの方に仕え、幾万もの者がその前に立っていた。さばきが始まり、いくつかの文書が開かれた。」

そしてこの神が、人の子キリストにすべての権限を任せられます。「ダニ 7:13-14 私がまた、夜の幻を見ていると、見よ、人の子のような方が天の雲とともに来られた。その方は『年を経た方』のもとに進み、その前に導かれた。14 この方に、主権と栄誉と国が与えられ、諸民族、諸国民、諸言語の者たちはみな、この方に仕えることになった。その主権は永遠の主権で、過ぎ去ることがなく、その国は滅びることがない。」キリストにこのように主権が渡されるのは、次の章、黙示録 5 章で見えていくことができます。私たちは、どれほど天を見つめ、この方が全てを支配しておられることを認めていくことができるかが、今の世を信仰をもって、忍耐して生きていくうえで大事なことです。

ところで、地上に住んでいる者たちのところに、天が開けるという出来事が聖書には何箇所にもありますが、例えば、イエスご自身にも起こりました。「マタイ 3:16 イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると見よ、天が開け、神の御霊が鳩のようにご自分の上に降って来られるのをご覧になった。」とあります。イエス様が公生涯の歩まれる時、それはまさしく天の御国が地に広がっていくことを意味していたのでしょう。そして異邦人宣教に使徒たちを召される時、ペテロに対して大きな敷布に動物がいるのを主が見せた時、「使 10:11 すると天が開け、大きな敷布のような入れ物が、四隅をつるされて地上に降りて来るのが見えた。」とあります。神が異邦人に対する救いをこの地上で展開される時に、天を開かれました。まさに、主イエスがペテロに、「わたしはあなたに天の御国の鍵を与えます。」と言われた通りです(マタイ 16:19)。

これらは天にあるものが地上に現れるのですが、その逆もあります。ステファノが殉教する時、「使徒 7:56 見なさい。天が開けて、人の子が神の右に立っておられるのが見えます」とあります。殉教をする聖徒たちは天に移されるので、天が開けます。教会が天に引き上げられるのも、こういった意味です。私たちは、天にあるものがこの地上に現れて、神の良き賜物が注がれるのを見る

し、また天に引き上げられて、主のもとに行くことも期待します。両方向で期待するのです。

そして、「ラッパのような音で私に語りかけるのが聞こえた」とあります。ラッパは、主ご自身がおられるところで鳴り響いています。シナイ山において、主が天から降りて来られたら、「角笛の音が非常に高く鳴り響いた」とあります(出エジプト 19:16)。おそらく、今ヨハネが聞いているのは、これと似たようなものでしょう。天におられる神からの角笛、御使いの角笛かもしれません。

そして聖書の中で数多く、呼びかける時の音として出てきます。イスラエルに対して、荒野の宿営の時にラッパを吹き鳴らして、出発するときの合図、また戦いのための召集される時の合図として使われます(民数 10 章)。例年行われる、七つの祭りにも、「ラッパを吹き鳴らす日」というのがあります(レビ 23 章)。そして、新約時代には、教会に対して主ご自身が、御使いによるラッパによって私たちを呼び集める時に使われます。「1テサロニケ 4:16 すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。」とあります。コリント第一にも、「15:52-53 終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちに変えられます。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。53 この朽ちるべきものが、朽ちないものを必ず着ることになり、この死ぬべきものが、死なないものを必ず着ることになるからです。」今、イエス様がラッパのような音でヨハネに語りかけておられます。

「あの最初の声」とありますが、ヨハネに話しかけてこられたイエス様の声です。1 章 10 節ですね、「私は主の日に御霊に捕えられ、私のうしろにラッパのような大きな声を聞いた。」とあります。イエス様が栄光の姿で現れた時に、ヨハネを呼びかけられた声です。私たちは、少しずつ黙示録を読んでいるので、そのつながりを見失いそうになりますが、要は、ヨハネが今、パトモス島にいて、主イエスご自身がヨハネに現れ、そして七つの教会に対する宣告を行われました。その後、これら教会の後に起こることを示すために、再び御霊によってヨハネを捕えて、天に引き上げようとされているのです。

2A 神の御座 2-7

1B 座っておられる方 2-3

² たちまち私は御霊に捕えられた。すると見よ。天に御座があり、その御座に着いている方がおられた。

ヨハネは、パトモス島にい、御霊に捕えられ、イエス様の栄光の姿を目撃しました。今、再び御霊に捕えられ、天の御座そのものを見ることになりました。これはちょうど、預言者エゼキエルが、バビロンのテルアビブという離散の地にいながらにして、御霊によって引き上げられてエルサレムの神殿にまで連れて行かれたのに似ています。御霊によって、引っ張られるように移動しています。

そして、天に入ることになれば、その中心は、神の御座であることを前回、コリント第二 12 章の礼拝説教で学びました。預言者イザヤも、主の幻を見ましたが、それは御座に着いておられる姿でした。「イザ 6:1 ウジヤ王が死んだ年に、私は、高く上げられた御座に着いておられる主を見た。」私たちが、天国ということばを聞く時に、一般には全く違うものを想像するようにされていますね。「キリスト教は、信じない者は地獄に行くように教えているでしょ。全く酷い宗教だ。」というような反応をする人々がいます。そういう人には、「では、礼拝にいらっしゃいますか？」と誘ってみてください。「全然行きたくない」と答えたら、こう教えてみてください。「天国の中心は、礼拝することです。天地を創造した神とその子キリストを礼拝し、ひれ伏すところです。」主が御座についておられて、すべてを支配されているところが天であります。

ですから礼拝を拒む人は、自ら天国に行くことを拒むのではないのでしょうか？そして、天国と地獄の二つしかないことが分かれば、地獄を選び取るでしょうね。これが、地獄に投げ込まれることの意味です。私たちは、黙示録で、どんなことがあっても、心を頑なに悔い改めない人々の姿が出てきます。本当は神を求めているけれども、災いを受けているのではなく、災いを受けてもそれでも神を拒む者たちの姿が出てきます。神は自由意志を尊重されますから、自ら第二の死、火と硫黄の池を選び取るものをそのままにされるのです。

黙示録には、また聖書を通じて、御座についての幻が数多くあります。天の御座、神の御座、栄光の御座、恵みの御座、ケルビムの上の座、大きな白い御座など、数多くあります。「詩篇 11:4 【主】はその聖なる宮におられる。【主】はその王座が天にある。その目は見通しそのまぶたは人の子らを調べる。」「103:19【主】は天にご自分の王座を堅く立てその王国はすべてを統べ治める。」この前、学んだように、どんなことがあっても、どんなことが起こっていても、主が全てのことを支配しておられ、動かしておられ、ご自分の思うままにしておられます。この根本真理を受け入れている人は、信仰が安定します。ヨブも結局は、あれだけの苦しみがあったのにそれでも立ち直れたのは、主が御座におられることを、その主権と権威を知っていたからです。

³ その方は碧玉や赤めのうのように見え、御座の周りには、エメラルドのように見える虹があった。

碧玉というのは、青白いダイヤモンドのような宝石です。赤めのうは、血のような赤色の宝石です。神の栄光の輝きですが、宝石による輝きは旧約のときからずっと啓示されていました。出エジプト記 28 章には、大祭司の装束についての主の命令が書かれています。大祭司は胸当てを着けなければいけません、その胸当てに宝石がはめ込まれます。こう書いてあります。「28:17-20 その中に宝石をはめ込み四列にする。第一列は赤めのう、トパーズ、エメラルド。18 第二列はトルコ石、サファイア、ダイヤモンド。19 第三列はヒヤシンス石、めのう、紫水晶。20 第四列は緑柱石、縞めのう、碧玉。」最後の石である碧玉と最初の石である赤めのうを、ヨハネは、神の御座の輝きとして見えています。そして、エゼキエル書 28 章には、ツロの王に対する預言として、その背

後に働くサタンの姿が描かれています。「28:13 あなたは神の園、エデンにいて、あらゆる宝石に取り囲まれていた。赤めのう、トパーズ、ダイヤモンド、緑柱石、縞めのう、碧玉、サファイア、トルコ石、エメラルド。あなたのタンバリンと笛は金で作られ、これらはあなたが創造された日に整えられた。」これは墮落する前の悪魔の姿ですが、神のすぐそばにいて、神の栄光の輝きをもって輝いていました。このように、神の御座は光り輝いています。黙示録 21 章に登場する天のエルサレムは、宝石による十二の土台石によって造られています。

そして次に、「エメラルドのように見える虹」とあるのですが、碧玉である青、赤めのうの赤、そしてエメラルドの緑を合わせると、光の場合には白になります。つまり、これらは神ご自身が光の中に住まわれていることを表しています。「1テモテ 6:15-16 キリストの現れを、定められた時にもたらしてくださる、祝福に満ちた唯一の主権者、王の王、主の主、16 死ぬことがない唯一の方、近づくこともできない光の中に住まれ、人間がだれ一人見たことがなく、見ることもできない方。この方に誉れと永遠の支配がありますように。アーメン。」このように、私たちは神を見る時に、そこに形はなく、光の中におられることを見ることでしょう。

そして、「虹」ですが、これはエゼキエル書 1 章において、主なる神の御座のところにも出ていた情景でありました。「1:28a その方の周りにある輝きは、雨の日の雲の間にある虹のようであり、まさに【主】の栄光の姿のようであった。」エゼキエル書において、神のエルサレムに対する裁き、バビロンによって滅ぼされる預言が始まり、しかし神殿が破壊された後に主がそれを建て直す約束を与えられました。神が裁きは行われても、ご自身の契約と約束をイスラエルに対して守られることを示したものでした。ノアに対しての契約において、虹が印となっていたのもそのためです。水による裁きを主が行なわれたけれども、決して人を滅ぼすことはないという約束を確信させるものでした。黙示録において、これから地上に裁きを神が下します。しかし、御国をもたらすという約束を必ず果されます。私たちの中で、いかに困難があっても、また混乱や混沌としていても、主が必ず約束を守られる方であることを思い出すことは大切です。

私たちの神は、天におられる父で、この方がすべてを治めておられる。どんな患難や混乱が起ころうとも、この方が治めておられる。このことを知ることだけで、私たちの信仰はゆるぎないものとなります。主が祈れと命じられた祈りを思い出したいと思います。「天にいます私たちの父よ。御名が聖なるものとされますように。(マタイ 6:9)」御名が聖なるものとされるとは、この方がこの方として、あがめられることです。4 章の初めの 1-3 節のことを思うことです。祈りで、信仰によって、思うことです。この方を私たちは父としており、この方の命じられることを行っていきます。

今回は、続き 4 節以降を見ていきます。神の御座の周りには、黙示録全体で登場する二つの存在です。二十四人の長老たちと、四つの生き物が、主を礼拝し、また今後、彼らが天にいる人々の礼拝を導きます。ヨハネも、長老と会話をします。